

太刀 忠重

法量 刃長 74.6 mm 反り 30.0 mm 元幅 26.2 (27.8) mm 重ね 6.7 mm 鎗重 7.3 mm 先幅 16.4 (17.3) mm 先重 3.4 mm 先鎗重 4.1 mm

形状 鎗造り、やや低い庵棟、腰反り深く、身幅細く、小切先。

鍛 板目に奎交えて精良、地沸つき、中程に幽かな映りが立ち、腰刃から水影風の映りに繋がる。

刃文 小沸出来の直刃に湾れごころが加わり、小互の目、小丁子、小乱れを交じえて、足・葉よく入り、潤んだ腰刃を焼く。

帽子 直ぐに先中丸風となり、ほとんど返りなし。

茎 生ぶ、刃方面取り、棟方は肉、先丸みを帯びた入り山形。鍔目勝手下り。

鎌倉時代初期を降らない古備前の名品である。刀剣美術誌第548号名刀鑑賞に所載。第12回特別重要刀剣。

